

かわさきコロナ情報(動画特設ページ)

#19 令和2年5月26日 ~市立井田病院の現状について~

こんにちは。川崎市長の福田紀彦です。5月26日、火曜日、かわさきコロナ情報をお伝えします。

今日は、川崎市立井田病院の取組についてお伝えします。先日、市立川崎病院の現状について動画で配信したところ、大変多くの市民の皆様にご覧いただきまして、医療従事者に対する感謝のメッセージや励ましの言葉をたくさんいただきました。改めて心から感謝申し上げたいと思います。

今回は、井田病院で現在もコロナの患者さんの入院を受け入れておりますけれども、元々川崎市立井田病院は、市内で唯一の結核病床を持っている病院でございまして、その40床は元々いらっしゃった患者さんを他の県内の医療機関で受け入れていただいて、空いた40床全体をコロナで受けられる体制に整備いたしまして、そして今も受け入れているという状況です。

医師、看護師、スタッフなどが本当に一丸となってコロナ対応に当たる、そして院内感染を起こさないという、必死の取組を今も続けています。そちらの取組を御覧いただければと思います。それではこちらの動画を御覧ください。

動画

=====

(川崎市立井田病院 感染症 内科 中島部長)

元々、市内で唯一結核病床を持っている病院であり、また感染症内科もありまして、近隣にあるクリニックから来る患者さんとか、行政からの感染症の患者さんの受入れをしてきました。

患者さんたちが病院にいらした時点で、一定の距離を取って並んでいただく、入口を固定しております。そこで体温を測って、病院内に入ってくださいなんですが、そのときに待っている間にアンケートをしていただいて、濃厚接触歴がないとか、具合がどうであったとかというようなことを記載していただきます。

そして、病院に入ってから熱のある方、疑いが少しでもある方は、特別のスペースに患者さんを御案内いたしまして、そこでもう1回、医師が問診をいたします。その結果として、コロナのPCRをした方が良いという判断になったときには、コロナ外来と呼んでいるテントを使った屋外と陰圧室での対応になる外来に行ってください。

N95マスクに関しては、ある程度の数は元々ございました。ただ、試算するとガウンがどうしても足りなくなるということがわかりまして、ガウンをどうしたら手に入れられるのかということに関しまして、自分たちで作るという方法をオオモリ医師と相談して、始めました。

(川崎市立井田病院 看護師)

私たちが感染してはいけないというところで、まず感染の防御で防護服を着るっていうところを、一番確実に着るということをしかりとやって、あとお互いにしかり着れているかの確認などしながら、今もそうですけれども、確認と探り探りという形でやっています。

コロナを受け入れるってことに対して、いろんな職種がちゃんと関わって、感染予防に気をつけて徹底できているっていうのが医療チームとしてはすごい良いのかなと感じました。

緊急事態宣言解除に当たって、感染拡大、第2波、第3波が来るかと思うんですけれども、より良い看護をしていけるように、感染に注意しながら頑張っていきたいと思います。

今まで2か月近く入院患者さんを受け入れてきたので、感染防御に対する知識や技術っていうのが自分たちも身に付いていますので、これを継続してケアできるように頑張っていきたいと思います。

(川崎市立井田病院 感染症 内科 中島部長)

挿管をしていないという意味では中等症なんですけど、挿管をするくらい低酸素の患者さんも何人もいらっやいました。難しい点としては、急激に悪くなるフェーズがございまして、その辺が転院をさせるのか、自分のところで診るのかということが非常に問題になりました。その点を解決するために、実は当院の方では重症の患者さんも診れるように、呼吸器あるいは部屋まで一応計画をしておりました。ただ、今回に関してはその辺を使わなくても患者さんたちの大部分が退院なさいました。

テレビとかでも言われているように、患者さんたちが低酸素になっても自覚症状がないことが多くて、その低酸素になるスピードが他の肺炎とは比べ物にならないくらい早いんですね。入院してきましたその日のうちに挿管になりそうですということがよくありました。

院内感染は一例も出ておりません。院内感染対策としまして、まず患者さんの疑似症に関しましては、HEPA フィルターを用いた個室に入院していただいております。また、診断が確定した患者さんは陰圧の病棟に入院していただいておりますので、他の患者さんと混じることはございません。職員が丸となって、院内感染対策を踏まえたコロナ対策にまい進しておりますので、安心して病院におかかりいただけると幸いと存じます。

今後も第2波、第3波が起こることは予測されますので、当院としてもその対応に備えていきたいと思っております。

=====

今、御覧いただきましたように、井田病院の入り口を一つにして、コロナの疑いのある患者さんと導線を全く別にしてとか、検温をすとか、様々な取組を行いながら、院内感染を絶対に起こさせないという取組を井田病院でも行っています。私、大変危惧しておりますのが、今、川崎市内だけじゃありませんが、医療機関、大きな病院も、それから診療所も、いろんな医療機関で受診を控えているというのが大変多いと報告が上がってきています。コロナの感染を恐れて、今持病があるんだけど、医療機関にかかるのはやめようと抑制されている、その気持ち非常によくわかります。しかし、そもそもこの持病の治療をしない、あるいは薬を飲まないということによって、病状を悪化させてしまうというそっちのリスクも同時に高くなってきていると懸念しています。是非、井田病院の取組もそうですけども、各診療所、医療機関みんな必死になって、この感染予防に努めていますので、その取組を御自身で行っていただくと同時に、医療機関も適切な対応を取っています。是非、そういった安心・安全の体制を万全にしていくとともに、そして、躊躇なく必要な医療には適切な医療を、受診をしていただきたいと思います。

これから緊急事態宣言が解除になりましたけども、引き続き、感染予防対策は個人個人で行っていただくとともに、なるべく日常生活に戻っていく。特に命に関わるような健康に関わる取組というのは、是非しっかりと対策を取った上で行動を起こしていただきたいと思っています。そのための対策、それから情報提供というのをこれからも積極的に行ってまいりたいと思っています。どうぞ皆さんの御理解をよろしくお願いいたします。